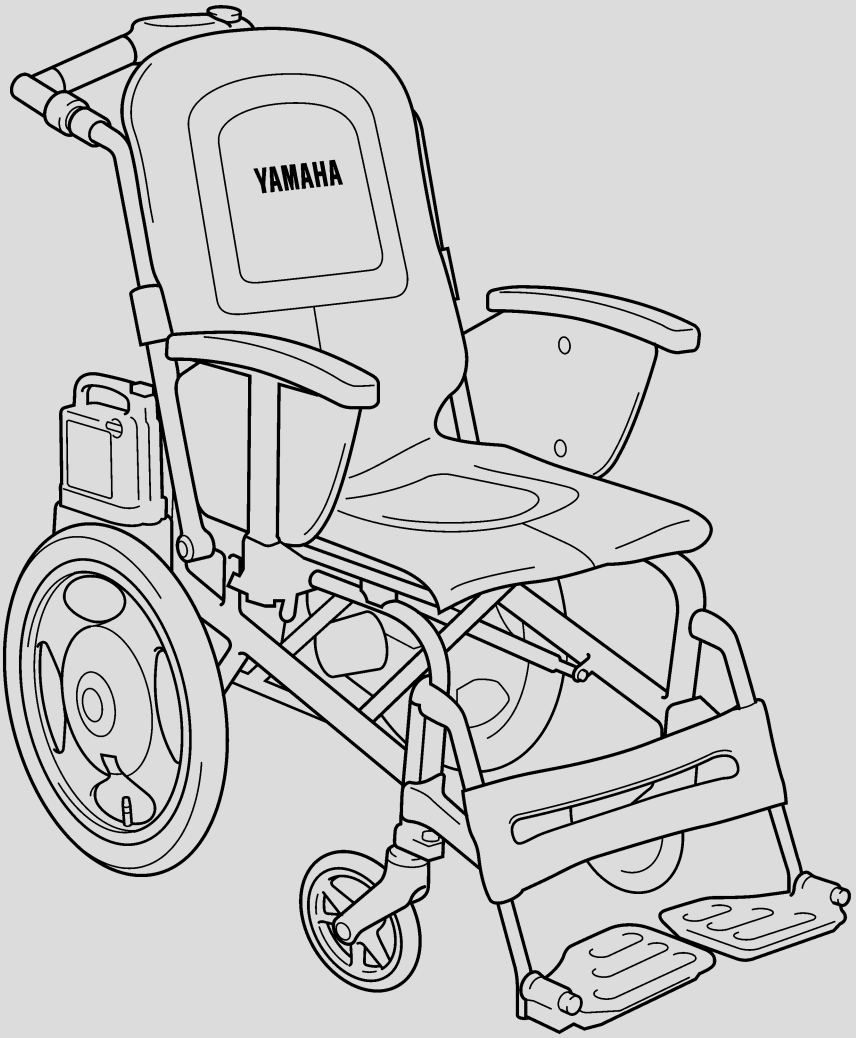
YAMAHA

タウニィパス

電動ハイブリット介助用車イス

取扱説明書



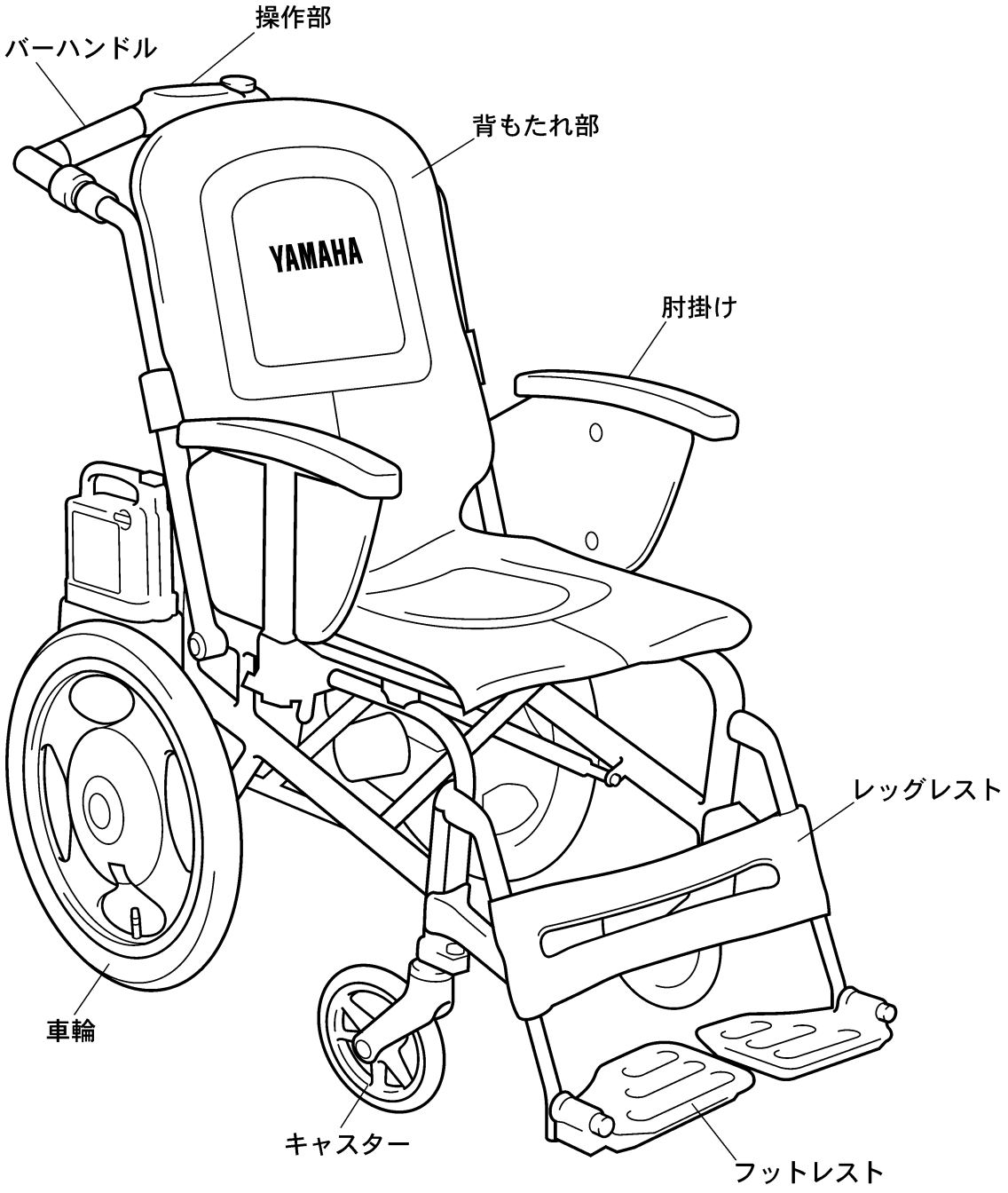
安全で快適にご使用いただくために、必ずこの取扱説明書をお読みください。また、お読みになったあともいつでもよみ返せるように、大切に保管してください。

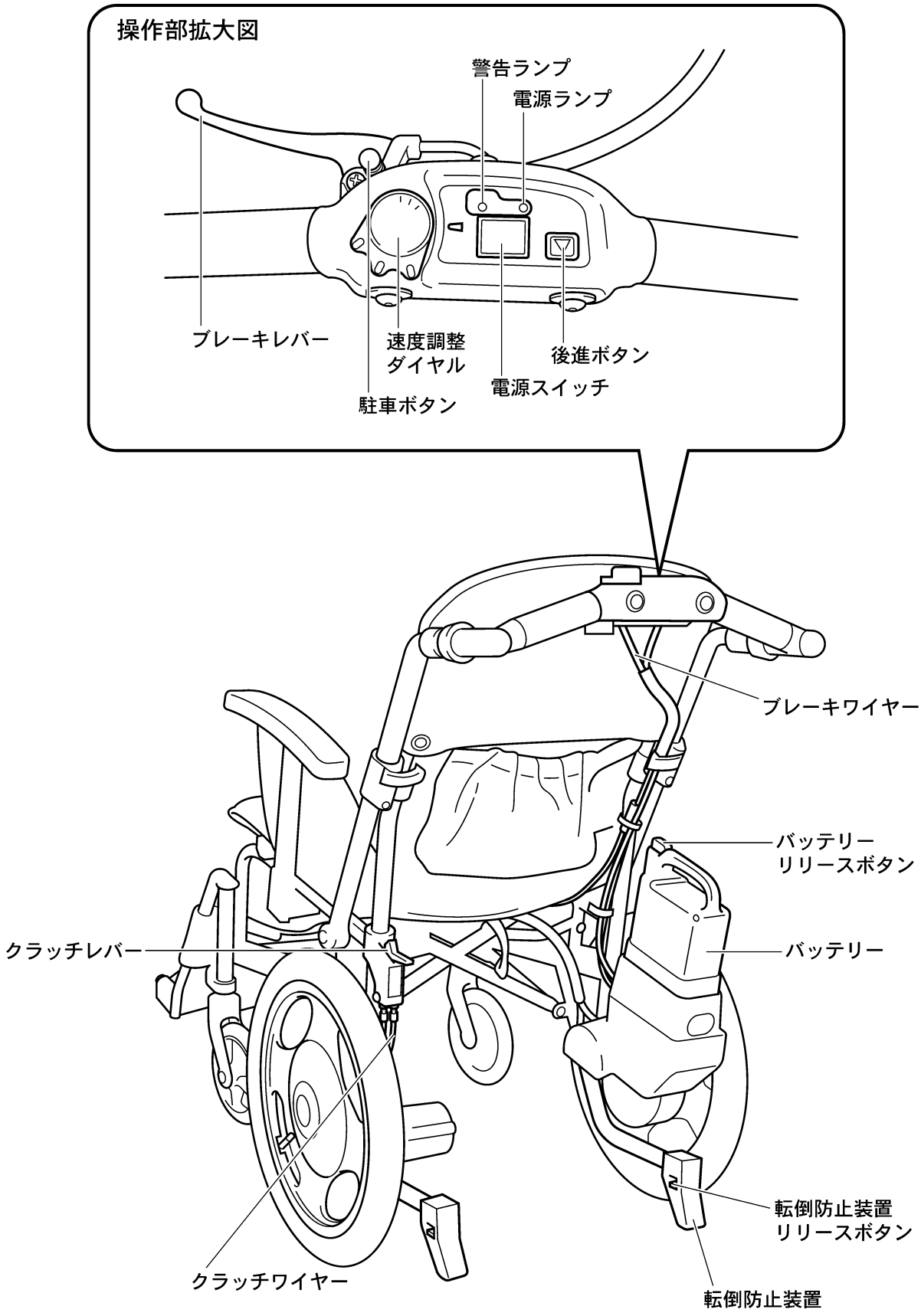
XA8-28199-00

目　次

1. 各部の名称 …… 2
2. 本書の見方 …… 4
3. パワーアシストの仕組み …… 5
4. 必ずお守りください …… 6
5. バッテリーと充電方法 …… 11
   1)バッテリー各部の名称と特性…… 11
   2)充電器の各部名称…… 12
   3)充電の準備…… 13
   4)充電方法（急速充電とリフレッシュ充電）…… 14
   5)充電中に異常が生じたら…… 16
   6)充電が終了したら…… 17
6. ご使用の前に …… 18
   1)各部の調整…… 18
   2)折りたたみと運搬…… 19
   3)乗車状態での持ち上げ…… 19
   4)車イスへの乗り降り…… 20
7. パワーアシスト走行 …… 21
   1)バッテリーの着脱と残量確認…… 21
   2)操作部の機能と使用方法…… 22
   3)パワーアシスト走行の手順…… 23
   4)登り坂…… 24
   5)下り坂…… 25
   6)段差乗り越し…… 25
8. 手動走行への切り替え …… 26
9. 保守点検 …… 27
10. もしもこんなときには …… 28
11. 仕様諸元 …… 29
12. アフターサービス …… 30

1. 各部の名称




操作部拡大図
警告ランプ
電源ランプ
ブレーキレバー
速度調整
ダイヤル
駐車ボタン
電源スイッチ
後進ボタン
ブレーキワイヤー
バッテリー
リリースボタン
クラッチレバー
バッテリー
転倒防止装置
リリースボタン
クラッチワイヤー
転倒防止装置

2. 本書の見方

このたびは、タウニィパスをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。タウニィパスは手動介助用車イスと同じような操作方法ですが、パワーアシストにより手動介助用車イスの操作感とは異なる点もございます。また、一般的に車イスでの走行は、ご使用方法を誤りますと路面や交通状況によって、けがをされたり車イスが破損する恐れがあります。
必ず介助操作をされる前に、本書をよくお読みになり、安全で快適にご使用ください。

正しい取り扱いに関する必要事項を下記シンボルマークで表示しています。

⚠警告 取り扱いを誤った場合、死亡または、重傷に至る可能性が想定される場合を示しています。

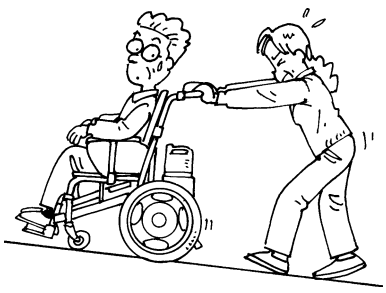
⚠注意 取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

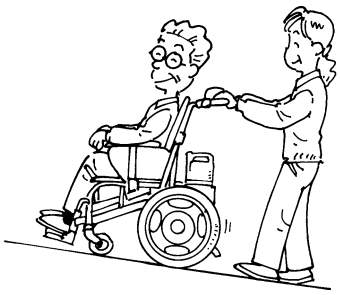
要 点 正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示しています。

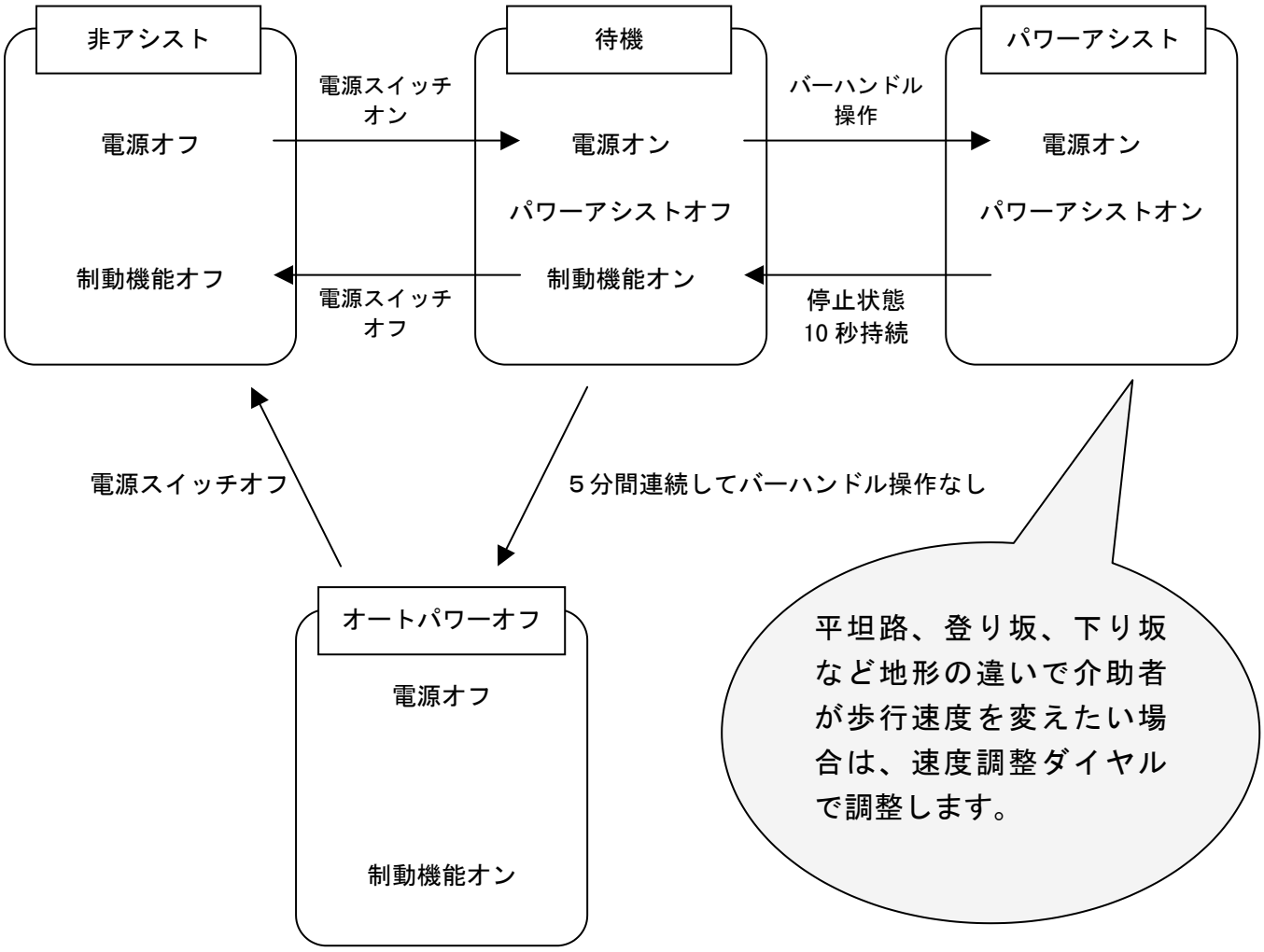
この記号は、してはいけないことを示しています。

3. パワーアシストの仕組み

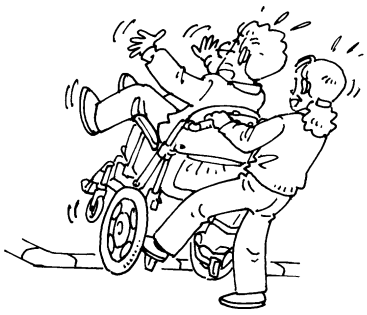
パワーアシストは、クラッチを「電動」側に、電源スイッチを「オン」にしたときに作動します。また、この状態ではタウニィパスに制動をかける機能も作動します。下のチャートをご参考の上、パワーアシストシステムや制動機能をよくご理解してください。







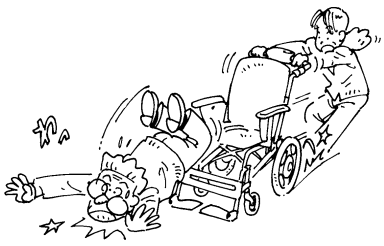
4. 必ずお守りください



⚠ 警告

電源を入れたままバーハンドルを使って、キャスターを上げる介助動作（段差乗り越えなど）をしないでください。場合によっては、パワーアシストが働いた拍子にバランスをくずして転落する危険があります。

・ キャスター上げをする場合は必ず電源をオフにしてから行ってください。



⚠ 警告

パワーアシスト走行中は、絶対に電源スイッチをオフにしないでください。坂道を下っているときに電源スイッチをオフにすると、制動機能がオフになり、転倒や転落の危険があります。

・ 電源スイッチをオフにするときは、必ず駐車ブレーキを確実にかけたあとに行ってください。

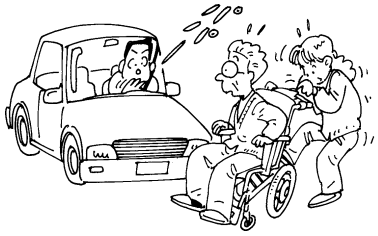
⚠ 警告

走行中にクラッチレバーを切り替えると、暴走、転倒、転落の恐れがあります。クラッチレバーの切り替えは必ず停止した状態で行って下さい。

・ 電動走行中に「手動」に切り替えると、下り坂ではモーターによるブレーキの効果がなくなって、暴走する恐れがあります。
・ 手動走行中に「電動」に切り替えると、その際のショックで体が前方に投げ出されたり、機器を破損させる恐れがあります。

⚠ 警告

バーハンドルや操作部に荷物やバックなどを絶対にかけないでください。不用意に動き出して転倒や転落の危険があります。



⚠ 警告

警告ランプが点滅してブザーが「ピピピピッ」と鳴ったら、早めにバッテリーを充電してください。そのまま電動走行を続けてバッテリーが完全になくなると、警告ランプが点灯し、ブザーが「ピー」と鳴ってパワーアシストが停止します。身動きができなくなるとたいへん危険です。必ずバッテリー残量を確認してお使いください。

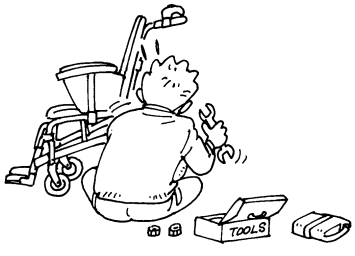
- 走行前または走行中に、バッテリーの容量表示ランプでバッテリー残量を確認してお使いください。
- 走行中にバッテリーの残量警告が起こった場合は、安全な場所に移動したあと、充電済みのバッテリーに交換するか、早めに充電を行ってください。

⚠ 警告

車イスから離れる場合は、必ず電源オフ、クラッチを「手動」側、駐車ブレーキをかけた状態にしてください。搭乗者や第三者がバーハンドルに触れた場合、動き出して転倒や転落の危険があります。

⚠ 警告

パワーアシスト走行中に、突然バッテリー警告ランプが点灯して、ブザーが「ピー」と鳴ってパワーアシストが停止した場合はシステムが故障している恐れがあります。パワーアシスト走行を中止してください。
27 ページの項目を調べた上で最寄りの取扱店に連絡してください。（バッテリー切れの際は、あらかじめバッテリー警告ランプが点滅してブザーが「ピピピピッ」と鳴ってから停止します。この場合は、システムは正常です。）



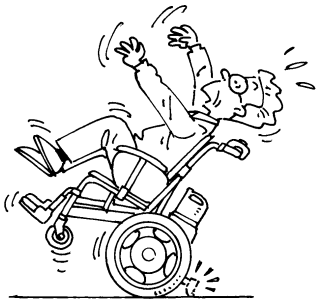
⚠ 警告

タウニィパスのユニットや取付け部に改造を加えると、性能低下や安全性を損なうことがあります。絶対にしないでください。
調子がおかしいなと思ったら、27 ページの項目を調べた上で最寄りの取扱店に連絡してください。

⚠ 警告

タウニィパスのバッテリーは小型ですが、大きなエネルギーを蓄えています。使い方を誤ると、機器の損傷を招いたり、場合によってはやけどや火災を引き起こす恐れがあります。

・ バッテリーの充電は、必ず専用充電器（JWC-2）で行ってください。
・ バッテリーを使用しないときには必ず保護キャップを装着してください。
・ バッテリーの（＋、―）端子を針金等の金属で接続しないでください。
・ バッテリーに強い衝撃を与えたり、分解や改造をしないでください。
・ バッテリーを指定の機器以外のものに使用しないでください。
・ バッテリーを火や水の中に投入したり、加熱しないでください。
・ バッテリーのヒューズは、指定のものを使用してください。
・ 万一、バッテリーケースが破損した場合には、使用しないでください。
・ バッテリーは、幼児や第三者の手が届かないところに保管してください。



⚠ 警告

転倒防止装置をはね上げたままで走行すると転倒する恐れがあります。はね上げた状態で絶対に走行しないでください。

・ 大きな段差を介助で乗り越す際には、転倒防止装置をいったんはね上げる必要がありますが、そうした場合でも必ず転倒防止装置が働く位置に戻してください。

⚠ 警告

まちがった手順で車イスに乗ったりまたは車イスから降りたりすると、不意に動き出して転倒したり転落する恐れがあります。必ず次の手順で乗り降りしてください。

・ 電源スイッチをオフにする。
・ 駐車ブレーキを確実にかける。
・ 転倒防止装置を確実にセットする。
・ 介助者が車イスを抑える。
・ 乗り移る際、背もたれに勢いよく体重をかけない。

⚠ 警告

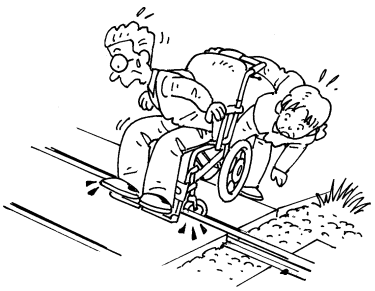
車イスを持ち上げるときは、絶対にバーハンドル、バッテリー、ケーブルを持たないでください。機器を破損させる恐れがあります。
特に人が乗った状態では、転倒したり、転落する恐れがあります。下記のことを必ずお守りください。

- 車輪が回らないように、駐車ブレーキをかけてください。
- 電源をオフにしてください。
- 持ち上げるときには、必ず車イスのフレーム部分を持ってください。

⚠ 警告

車イス本体や車輪に異常がある状態で使用し続けると、走行中に突然車イスが破損し、転倒、転落の恐れがあります。
常時、車イス各部の状態を確認し、異常に気が付いたら速やかに取扱店にて点検・整備を行ってください。

- フレームの破損
- 各部締付けのゆるみ
- ブレーキの効き具合
- キャスターの変形
- タイヤの摩耗など



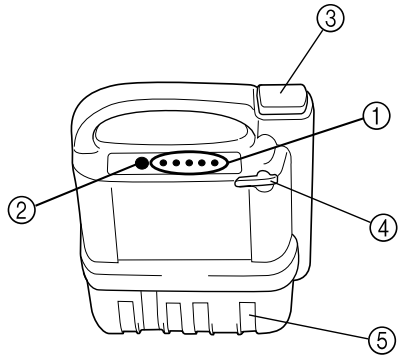
⚠ 警告

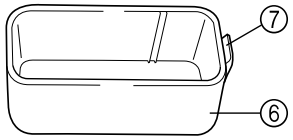
次のような場所や環境では危険が伴う場合があります。必ず介助者が安全を確保してください。

- 踏切を渡るとき（線路内にキャスターを落とす危険があります。）
- 信号機のない横断歩道では左右の交通に十分注意して渡ってください。
- また、信号機のある横断歩道でも、広い道路では横断中に信号が変わる恐れがあります。そうした場所では、次の青になるまで待って余裕をもって渡るようにしてください。
- 狭い車道の脇を通るのはたいへん危険です。できるだけ安全な道すじを選んでください。
- 柵のない歩道（車道に転落する危険があります。）
- プラットホーム（線路に転落する危険があります。）
- 側溝や下水溝などの網目状のふた（キャスターを落とす危険があります。）
- 砂利道（タイヤが埋まり身動きできなくなる危険があります。）
- 電源をオフにしたままで坂道を降りないでください。（自分の力でブレーキをかけることができない速度に達した場合、たいへん危険です。）
- 車体が左右に大きく傾斜する場所（横転する危険があります。）
- 夜間の走行（路面状態が確認できずに転落したり、第三者が認識できないために衝突する危険があります。）
- リフトバスへの乗降（リフト上から転落する危険があります。）
- そのほか、車イス走行に適さない場所や初めて出かける場所。

5. バッテリーと充電方法

1) バッテリー各部の名称と特性





①容量表示ランプ
充電・放電状態や異常内容を表示します。

②表示スイッチ
バッテリー残量を表示させるためのスイッチです。

③リリースボタン
バッテリーをユニットからはずすときのボタンです。

④電池ヒューズ
バッテリーを保護するためのヒューズです。正常なときにははずさないでください。

⑤接点部
電流やバッテリー情報を伝えます。

⑥保護キャップ
短絡防止や接点部保護のためのキャップです。

⑦予備電池ヒューズ
本体のヒューズが切れたときの交換用です。

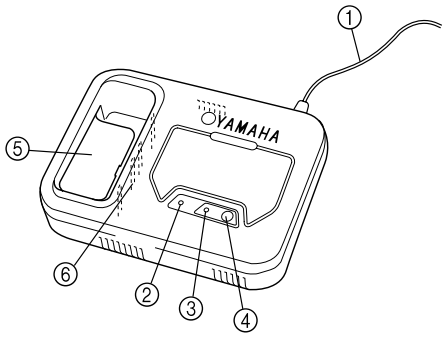
バッテリーの特性

①地形や温度、充電方法によっては、走行距離が短くなる場合があります。
- 登坂走行や段差乗り越えなどの多いところでの走行は、平地に比べてバッテリーの消費電力が増えるため走行距離は短くなります。
- 気温が低いときはバッテリーの働きが弱まり、走行距離が短くなります。
- バッテリーを使い切らずに充電するといった方法を繰り返すと容量が低下し、走行距離は短くなります。(リフレッシュ充電を正しく行うことにより、この現象を防ぐことができます。)
- 上記の現象は高温での充電環境で特に起こります。(10～30℃が推奨環境温度です。)

②バッテリーは正しく使っていても月日が経つと徐々に性能が衰えていきます。(劣化)
- ニカドバッテリーの寿命は使い方や使用環境により異なりますが、約 1 年間もしくは約 400 サイクルが目安です。(充電完了後の容量表示でも判断できます。)
- 劣化が進むと容量表示が不正確になります。お買い求めの販売店等にご相談いただき、早めに新品バッテリーに交換されることをお勧めします。

③バッテリーは使用しなくても自然に残量が減っていきます(自己放電)。
- 長期間使わない場合でも、定期的に容量表示で残量を確認して適宜、再充電してください。長期保存時に充電できない場合は、自己放電を抑えるために、バッテリーのヒューズをはずしてください。(ヒューズをはずすと容量表示ランプが正しく表示しなくなりますが、再充電することで正常に戻ります。)
- 自己放電は保存温度に影響を受け、特に高温で加速します。(0～30℃が推奨保存温度です。)
- タウニィパスに装着したまま保存すると、わずかですがバッテリーを消費します。長期間使わない場合は取り外して保存してください。
- このバッテリーはドライバッテリーです。(バッテリー液は入っていません。)

2) 充電器の各部名称



① 電源コード

AC100～240V　50/60Hz の入力電源に対応しています。（世界各国の電圧に対応していますが、電源プラグは各国形状にあった変換アダプターが必要です。）

② 充電中ランプ（緑色）

充電中に点灯したり、待機中に点滅します。

③ リフレッシュランプ（黄色）

リフレッシュ充電が必要な時期に点滅し、リフレッシュ充電中に点灯します。（ニカドバッテリーやニッケル水素バッテリーは、完全に放電させてから充電すると、バッテリー性能を回復させて走行距離の低下を防ぐことができます。）

充電中に、バッテリーか充電器に異常が発生すると、表示ランプを点滅させて異常箇所をお知らせします。（15 ページ　参照）

④ リフレッシュスイッチ

リフレッシュランプが点滅したときに使用します。スイッチを押すと、リフレッシュ充電が始まります。

⑤ バッテリー差し込み口

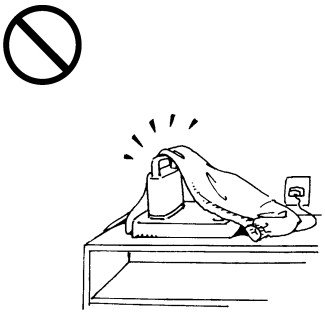
⑥ 接点部（4 ヶ所）

電流やバッテリー情報を伝えます。（充電時のバッテリー温度は、バッテリーの寿命に大きく影響します。専用充電器は、バッテリーから温度情報を取り込み、充電を管理します。）

3) 充電の準備

充電場所は次のようなところを選びましょう。

- 屋内の涼しく風通しのよいところ
- 充電中の温度が 10～30℃に保たれるところ
- 平坦で安定がよいところ



⚠注意

次のようなところは避けてください。

- 直射日光が当たる場所やストーブのそばなど高温になるところや、寒冷地などでは、冬期に氷点下に気温が下がるところ
  バッテリー温度が熱すぎたり冷たすぎたりすると充電が始まりません。
- 屋外で雨に濡れたり、洗面所など水がかかるところ
  ショートしたり、感電する恐れがあります。
- 充電器の上や回りに物を置かないでください。
  充電中に充電器が発熱し、機能が低下することがあります。
- 幼児やペットなどがいたずらしそうなところ
  けがをしたり、機器を損傷させる恐れがあります。

バッテリーを充電器に装着しましょう。

① 電源コードを充電器側とコンセント側に、プラグ部分を持って差し込みます。

⚠注意

- バッテリー保護のため、バッテリー温度が 0℃～40℃の範囲外の場合は、充電を開始しません。適温になったあとに充電してください。
- 夏の暑い日中に走行した直後のバッテリーは、高温になりますので充電の前に適温まで自然に冷ましてください。

② バッテリーを充電器のバッテリー差し込み口につきあたるまでしっかりと差し込みます。

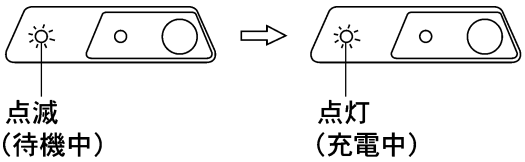
⚠注意

- バッテリー差し込み口には、手や物を入れないでください。
- バッテリー差し込み口に異物がないか確認してください。もしあれば取り除いてから、バッテリーを差し込んでください。
- 充電器の接点を変形させたり、傷つけたりしないでください。

4) 充電方法（急速充電とリフレッシュ充電）

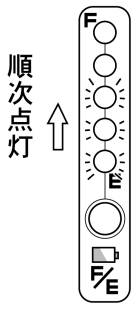
バッテリーを充電するには、短時間に充電を行う「急速充電」と、バッテリーを回復させながら充電を行う「リフレッシュ充電」の二つの方法があります。バッテリーを長持ちさせ、走行距離の低下を防ぐために、「リフレッシュ充電」を知らせる表示ランプが点滅したら必ず「リフレッシュ充電」を行ってください。

■急速充電の仕方



① バッテリーを充電器に装着します。バッテリー温度が適温であれば、充電中ランプ（緑色）が点灯して充電が始まります。

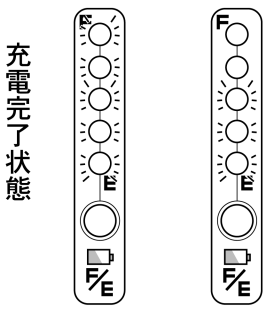
② バッテリー温度が 0℃以下もしくは 40℃以上の範囲にあると、適温になるまで充電中ランプ（緑色）が点滅します。バッテリー温度が適温になると、同ランプが点灯して自動的に充電が始まります。（待機時間は条件により異なりますが、1～2 時間かかります。）



③ 充電中は、バッテリーの容量表示ランプが順次点灯し、充電の進み具合を表示します。充電は約 2～3 時間で完了します。

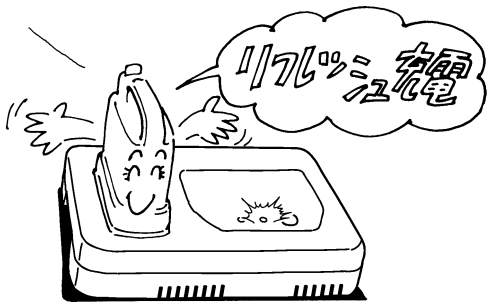
④ 充電が完了すると自動的に充電器の充電中ランプ（緑色）とバッテリーの容量表示ランプが消えます。

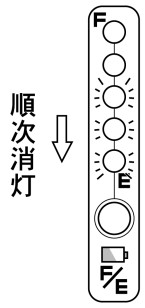
> **⚠注意**
>
> 充電済みのバッテリーをさらに充電しないでください。温度が上昇してバッテリーの寿命を短くします。



> **⚠注意**
>
> バッテリーの劣化が進むにつれて充電が完了したときでも 5 番目、4 番目・・と順次、容量表示ランプが点灯しなくなってきます。充電完了状態で 5 番目と 4 番目のふたつのランプが点灯しなくなった場合をバッテリー交換の目安としてください。

■リフレッシュ充電の仕方

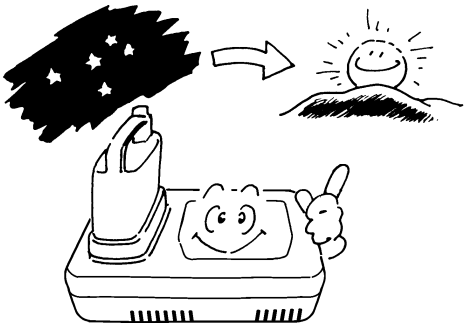




①バッテリーを装着します。
②リフレッシュ充電が必要になると、リフレッシュランプ（黄色）が点滅しリフレッシュ充電をお知らせします。リフレッシュランプが点滅している間（約 10 秒）に、リフレッシュスイッチを押してください。リフレッシュランプが点灯して残ったバッテリーの放電が始まります。
③放電中は、バッテリーの容量表示ランプが順次消えて放電の進み具合をお知らせします。
④放電が完了すると、自動的に充電が始まります。（充電完了までの手順は、急速充電と同じです。）

⚠注意

「リフレッシュ充電」のお知らせを無視して「急速充電」を続けると、バッテリーの容量表示が不正確になってきます。「リフレッシュ充電」のお知らせが始まってから、3 回目までの充電の間に必ず「リフレッシュ充電」を実施してください。

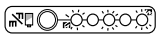


要 点

- 「リフレッシュ充電」は通常、2～7 時間かかります。（高い温度の場所では、さらに時間がかかる場合があります。）
- 就寝前に「リフレッシュ充電」を開始し、翌朝まで放置すると効率的に充電できます。
- 「リフレッシュ充電」のお知らせがあった場合でも、短時間に充電を完了したいときはそのまま放置すれば約 10 秒後に「急速充電」が始まります。

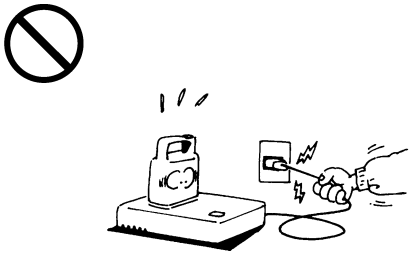
5) 充電中に異常が生じたら

充電中に、バッテリーか充電器に異常が発生すると、充電器の充電中ランプ、リフレッシュランプ及びバッテリーの容量表示ランプが点滅して異常をお知らせします。
（充電器は非分解の構造です。充電器の異常が発生した場合は、取扱店またはヤマハサービスセンターにご相談ください。）

バッテリー	充電器	
 1，3，5 番目点滅		・ バッテリーの温度が充電に適していません。バッテリーの温度が適温になるまで待って充電を始めてください。
 4 番目点滅	 緑・黄の同時点滅	・ バッテリー内部の異常です。新しいバッテリーに交換してください。
 緑・黄の 早い交互点滅		・ 接点不良の恐れがあります。バッテリー側、充電器側の接点部を点検して、ゴミづまり等があったら取り除いてください。また、接点部に汚れがある場合は、接点を変形させたり、傷つけたりしないように注意して乾いた布で汚れをふき取ってください。 ・ バッテリーのヒューズが切れている恐れがあります。バッテリーの側面にあるヒューズのフタをあけてヒューズを点検し、切れていれば保護キャップ上の予備ヒューズに交換してください。 **⚠ 警告** 火災などの原因になる恐れがあるので、バッテリーのヒューズは指定のものを使用してください（20A ブレードヒューズ）。決して針金等で代用しないでください
	 緑・緑・黄 の順次周期点滅	・ 充電器に異常があります。新しい充電器に交換してください。
	 緑・緑・緑・黄 の順次周期点滅	・ 充電器に異常があります。新しい充電器に交換してください。

6) 充電が終了したら

① 充電が終了したら充電済みのバッテリーを取り外し、必ず保護キャップを装着して保管してください。



② 電源コードのプラグ部分を持って、コンセントから引き抜きます。

> ⚠注意
>
> 電源コードを引っ張って抜かないでください。断線の原因になります。

③ バッテリーの長期保管

バッテリーは自己放電によりバッテリーの容量が減ります。長期間使用しないで保管する場合は、バッテリーを充電して高温になる場所を避けて保管してください。

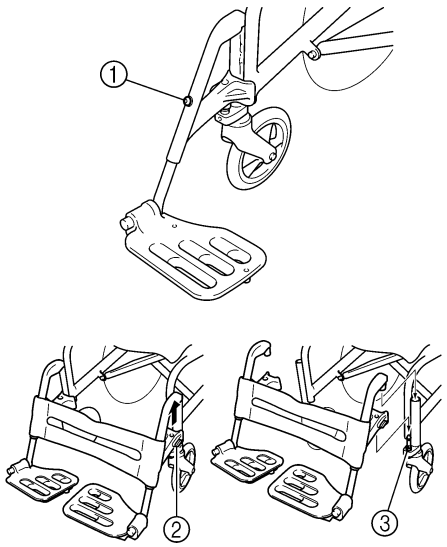
④ バッテリーのリサイクル

寿命がきて使えなくなったバッテリーは、リサイクル可能な貴重な資源です。リサイクルの際は、取扱店までお申し付けください。

Ni-Cd

6. ご使用の前に

1) 各部の調整

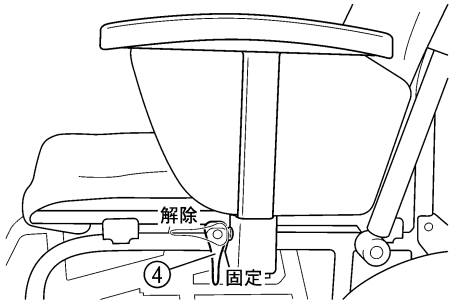


フットレストの高さ調整と着脱

・ レッグパイプの固定ねじ①をゆるめ、左右のフットレストを適当な高さに合わせてしっかり締め付けてください。
・ フットレストをはずすときは、固定ボタン②を押しながら上に引き抜いてください。
・ フットレストをつけるときは、ピン③を合わせてフレームパイプの上部に差し込んでください。

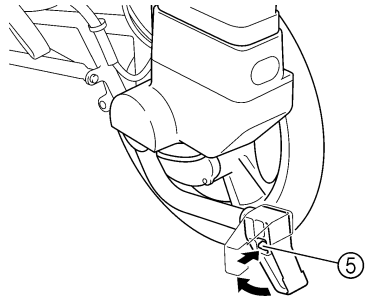
レッグレストの調整

搭乗者の足がフットレストから落ちないように、適当なたわみを持たせて張ってください。



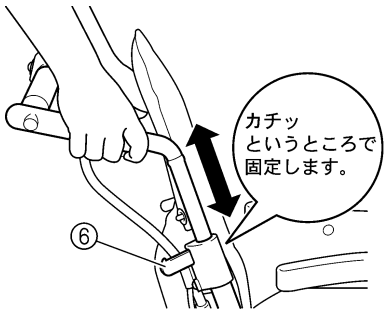
肘掛け高さ調整と着脱

・ 固定レバー④を解除して、搭乗者に快適な肘高さに合わせて調整してください。(三段階)
・ 移乗時など肘掛けをはずすときは、固定レバーを解除して上に引き抜いてください。



転倒防止装置の解除と設定

・ 転倒防止装置の設定を解除するときは、解除ボタン⑤を押し下げて水平位置に回してください。元の位置に設定する場合は「カチッ」と固定する位置まで回してください。

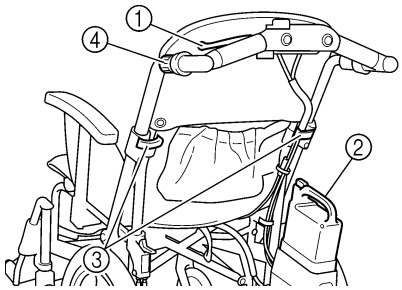


バーハンドルの高さ調整と固定

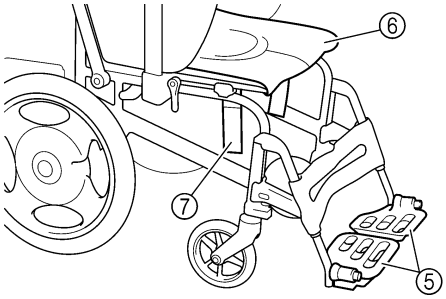
バーハンドルの高さ調整は、左右の固定レバー⑥を起こし、スライドパイプを持って上下に動かします。介助操作しやすい位置に左右の高さを合わせたあと、固定レバーを確実に折りたたんで固定します。(5 段階)

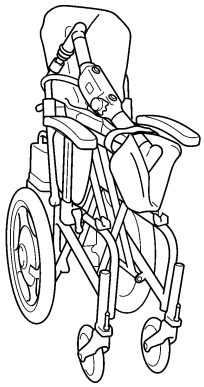
2) 折りたたみと運搬

車への積み込み時など、車イスを折りたたむ場合は次の手順で行ってください。



A. 駐車ブレーキ①をかけて、バッテリー②をはずす。
B. 左右の固定レバー③を起こし、スライドパイプを下まで下げる。
C. バーハンドルの左側固定リング④をゆるめてとりはずす。
D. 左右のフットレスト⑤を上にはね上げる。
E. 座面⑥の前側と後ろ側のフックを持ち上げたあと、座面を内側に折り曲げて左右のシートレールを合わせる。
F. バーハンドルの左側をシートの上に回し、シート下側の固定ベルト⑦でバーハンドルを固定する。





⚠注意

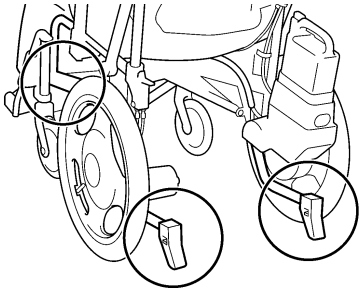
- 折りたたんだ車イスを持ち上げる場合は、必ず車イスのフレーム部分を両手でつかんで持ち上げてください。
- 運搬時はバーハンドルの操作部側を下にしないでください。

要 点

- 運搬のあと、車イスを使用するときは、逆の手順で拡げてください。
- 座面を拡げるときは、座パイプ部を下に押し下げてください。
- 固定リングは確実に締め付けて固定します。

3) 乗車状態での持ち上げ

階段などで、搭乗者ごと車イスを持ち上げる場合は必ずフレーム部分を両手でつかんで持ち上げてください。

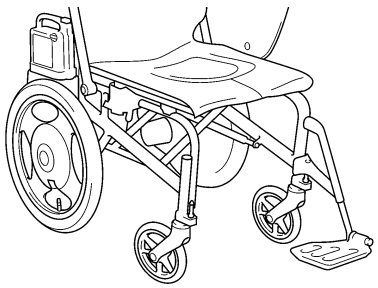


⚠注意

搭乗者の安全や介助者の負担軽減を考慮して、必ず４人で持ち上げてください。

4) 車イスへの乗り降り

車イスへ乗り降りするときは、搭乗者の安全や介助者の負担軽減に配慮してください。



要 点

搭乗者のお体の状態によっては、フットレストや肘掛けをはずして乗り降りの介助をすると、介助者の負担を軽減することができます。

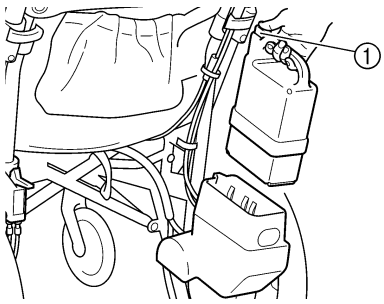
⚠注意

搭乗者が車イスから転落しないように、搭乗者の乗車姿勢を確認してください。

- シートベルトを常用している方は忘れずに装着してください。
- フットレストに足がきちんと乗っているか確認してください。

7. パワーアシスト走行

1) バッテリーの着脱と残量確認



バッテリーの着脱方法

・電源ボタンをオフにしてバッテリー差し込み口に異物がないか確認してから、バッテリーを「カチッ」と止まるまで差し込んでください。

・バッテリーを取りはずす場合は、電源ボタンをオフにして、バッテリーのリリースボタン①を押しながら上にまっすぐ引き抜いてください。

⚠注意

・バッテリー差し込み口には、手や物を入れないでください。

・バッテリー差し込み口に異物がないか確認してください。もしあれば取り除いてから、バッテリーを差し込んでください。

・接点を変形させたり、傷つけたりしないでください。

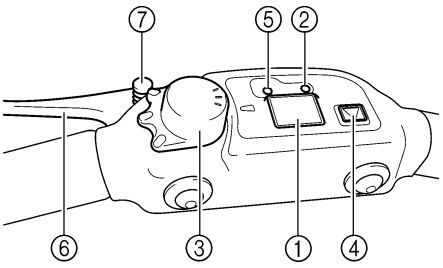
バッテリーの残量確認

表示スイッチを押すと、数秒間、容量表示ランプが点灯します。

要 点

バッテリーの劣化が進むと、充電完了時でも容量表示ランプがすべて点灯しなくなり走行距離が短くなります。

2)操作部の機能と使用方法



電源スイッチ①と電源ランプ②

・電源オフの状態で、電源スイッチを押すと、「ピッ」いう音が鳴り、電源ランプと警告ランプがいったん点灯したあとに警告ランプが消えて、パワーアシスト走行が可能になります。

・電源オンの状態で電源スイッチを押すと電源ランプが消えて、電源オフの状態になります。

速度調整ダイヤル③

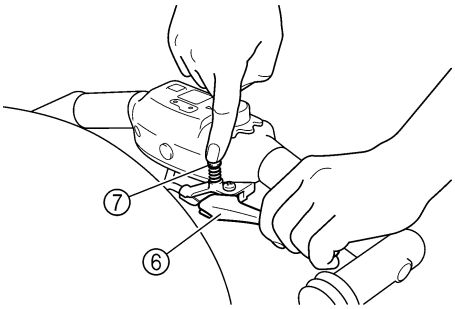
・調整ダイヤルは、前進の場合、速度が 1～6 km/h の間で速度を調整します。後進の場合、速度が 1～2 km/h の間で速度を調整します。介助者の歩行速度や周囲の状況に合わせて調整してください。

後進ボタン④

パワーアシスト走行時にバックする際、軽く押し続けます。ボタンから手を離すと電動走行を中止します。

警告ランプ⑤

バッテリー残量が少なくなったときやシステム異常が起きたときに、点滅や点灯で知らせます。



ブレーキレバー⑥と駐車ボタン⑦

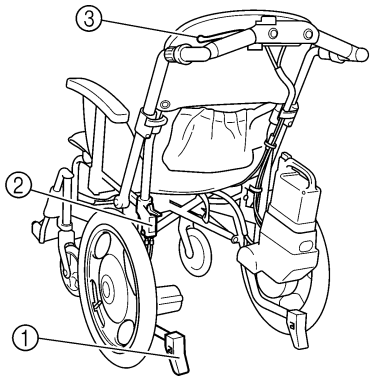
・手動走行中にブレーキをかけるときは、ブレーキレバーを握ります。

・駐車する場合は、ブレーキレバーを握り続けた状態で駐車ボタンを押し下げます。ブレーキレバーが元に戻らないことを確認して駐車ボタンから手を離します。

・駐車ブレーキを解除する場合は、ブレーキレバーをいったん握り駐車ボタンが戻ったことを確認してブレーキレバーから手を離します。

3) パワーアシスト走行の手順

パワーアシスト走行の前に、転倒防止装置、クラッチレバー、駐車ブレーキの状態をチェックしてください。



・転倒防止装置①を垂直にセットする
・クラッチレバー②を「電動」側にセットする。
・ブレーキレバー③を駐車ボタンで固定する。

電源スイッチを入れます。「ピッ」という音とともにいったん緑と赤いランプが両方点灯します。約 1 秒後に赤いランプが消え、緑のランプが点灯し、パワーアシスト走行が可能となります。

要 点

・電源スイッチを入れるときにバーハンドルに力が加わっていると、安全装置が働いて走行できません。登り坂では駐車ブレーキをかけた状態で電源を入れてください。

駐車ブレーキを解除し、バーハンドルを軽く押してください。方向転換のときは両手でバーハンドルを左右に回してください。

要 点

・最初は調整ダイヤルを「遅」側にし、パワーアシスト走行に慣れてから「速」側に切り替えてください。

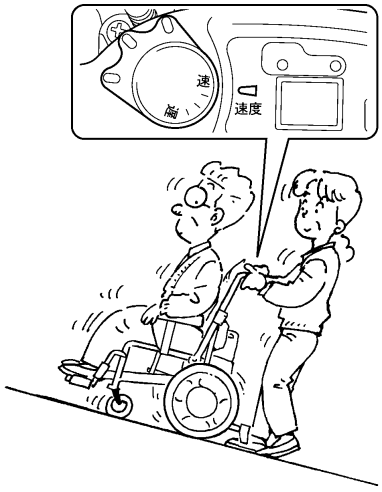
パワーアシスト走行中に後ろに進む場合は、「後進」ボタンを押し続けます。停止する場合は、「後進」ボタンから手を離します。

バーハンドルを押さない状態が 5 分間続くと、バッテリー節約のために自動的に電源が切れます（オートパワーオフ機能）。再度電源を入れ直してください。

携帯電話や無線通信機器は、使用する際に電磁波を発生します。これらの機器を使用する場合は、タウニィパスが電磁波の影響を受けないように下記の点にご注意ください。

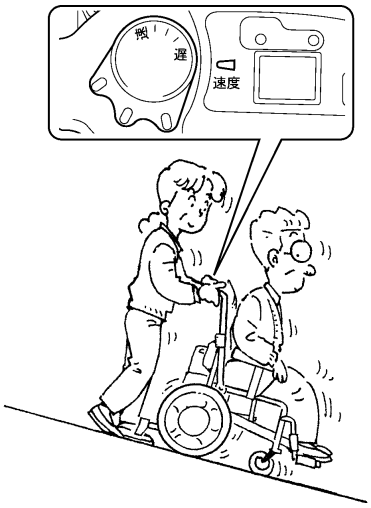
> ⚠ 注意
>
> ・携帯電話などを使用する場合は安全な場所に停止してタウニィパスの電源をオフにしてお使いください。
> ・電動走行中は、携帯電話などの電源を切っておいてください。

4) 登り坂



登り坂では、勾配が大きくなると車イスを押す力が大変になり、介助者の歩行速度が遅くなります。速度調整ダイヤルを「速」側に設定してください。

5) 下り坂



坂道を下るときは、下に引っ張られる力（重力）が働き、車イスの速度が速くなります。速度調整ダイヤルを「遅」側にして、速度を抑えて下ってください。

⚠注意

急な坂道を下るときや急な傾斜地を横断するときは、搭乗者が転落しないように安全に配慮してください。

- 急な坂道を前進で下ると搭乗者が前のめりに転落する恐れがあります。後進で下ってください。
- 急な傾斜地は、横切ったり斜め方向に走行しないでください。バランスを失って横転する恐れがあります。

6) 段差乗り越し

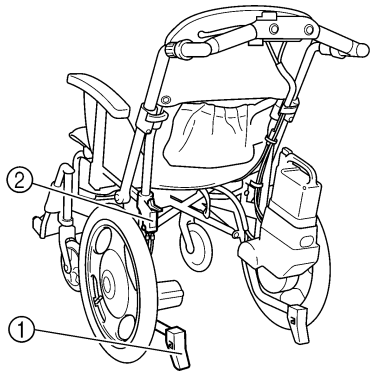
- 電源ボタンをオフにし、クラッチを手動側にして段差乗り越しを行ってください。
- 転倒防止装置部分を静かに足で踏みながら、バーハンドルを下に押してキャスターを上げてください。大きな段差を乗り越す際には、転倒防止装置をいったんはね上げる必要がありますが、そうした場合でも必ず元の位置に戻してください。

要 点

搭乗者が、背もたれに体重を意図的にかけることで、車イスの角度がつけやすくなります。

8. 手動走行への切り替え

手動走行の前に、転倒防止装置、クラッチレバー、駐車ブレーキの状態をチェックしてください。



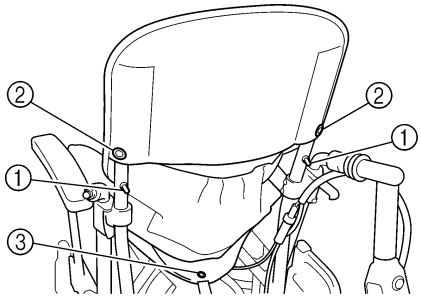
・転倒防止装置①を垂直にセットする。
・クラッチレバー②を「手動」側にセットする。
・電源スイッチをオフにする。

⚠注意

・クラッチを切った状態でも電源スイッチがオンになっていると、モーターが作動します。（パワーアシストは働きません。）
・バッテリー消費を節約するために必ず電源をオフにしましょう。

9. 保守点検

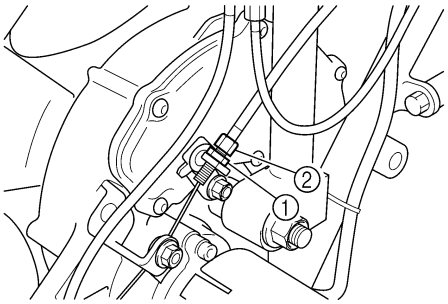
洗濯やシート交換などでシートをはずす場合は、折りたたみ要領（18 ページ）で車イスを折りたたんだ後、次の手順で行ってください。



・背もたれ後ろのピン（左右）①からハトメ②をはずします。
・シート固定テープ（前側 3 ヶ所）をはがします。
・シートの裏側にある左右の固定テープをはがします。
・シート後部のホック③をはずします。
・シートを上に持ち上げてパイプから抜きます。

要 点

シートを洗濯する場合は、次の点に配慮してください。
・弱アルカリ洗剤を使用してください。
・漂白剤は使用しないでください。
・シワをのばし日陰で干してください。
・白物と一緒に洗濯しないでください。



ブレーキの調整は次の手順で行ってください。
・ブレーキワイヤーのロックナット（車輪側）①をゆるめ、アジャストナット②を回し、適正な位置で固定します。
・ブレーキレバーの遊びが 10 ㎜ 程度になるように調整します。

要 点

・左右ブレーキの効き具合が均等になるように調整します。
・調整が困難な場合は、取扱店にご相談ください。

タイヤ空気圧は、常に適正値を保つように心掛けてください。（自転車と同じバルブ方式を採用しています。）
標準空気圧：250kPa（2.5kg/cm^2）

10. もしもこんなときには

タウニィパスの調子がおかしいなと思ったら、修理を依頼する前にまず以下の項目を調べてみましょう。

	こんなとき・・・	ここをチェック	対処方法
パワーアシスト走行	パワーアシストが働かない	電源が入っていますか クラッチが切れていませんか バッテリーが切れていませんか バッテリーが正しく差し込まれていますか オートパワーオフで電源が切れたままになっていませんか	電源を入れてください クラッチレバーを「電動」側に倒してください 残量を確認してください バッテリーを差し込み直してみてください 電源スイッチをいったん切り、入れ直してください
	押しても動かない	駐車ブレーキが働いていませんか	駐車ボタンを解除してください
	異常振動	車輪取付け部がゆるんでいませんか 駆動部から異音がしませんか	再締付けをしてください 取扱店にご連絡してください
	バッテリー走行距離が短い	バッテリーが完全に充電されていますか	走行前に残量を確認してください
手動走行	手動操作が重い	タイヤの空気圧が低くありませんか	タイヤに空気を入れてください
充電	充電しない	電源コードが接続されていますか バッテリーのヒューズが切れていませんか 充電器周りの温度が適温ですか	接続してください ヒューズを交換してください 充電適温場所で充電してください
	充電がすぐ終わる	満充電されていませんか	残量を確認してください
	充電が長く続く	充電器周りの温度が適温ですか	適温になるまで待ってください
	充電器が異常に高温になる		取扱店にご連絡してください
	異音・異臭がする		取扱店にご連絡してください

11. 仕様諸元

●タウニィパス

全長×全幅×全高	1005mm×555mm×925mm（座幅 410mm）
重量	約 19kg
パワーアシスト範囲	1～6.0km/h
走行距離／１充電	約 8km ※
モーター	24V 90W×2
駆動方式	後輪パワーアシスト直接駆動
操舵方式	手動操舵
タイヤサイズ	16×1.75

※バッテリー新品満充電、常温 25℃、連続平坦路、時速 4km/h 走行時

●充電器

電源		AC100～240V, 50/60Hz
定格出力		29V、2.6A（充電時）
使用バッテリー		JWC-2 専用バッテリー （ニカド、24V×3.5Ah、20A ブレードヒューズ）
充電時間	急速充電	約 1.5 時間
	リフレッシュ充電	2～7 時間
使用温度範囲		0～40℃

12. アフターサービス

お買い上げいただきました取扱店が、点検･修理をはじめサービスのご相談等、いつまでも親切にお受け致します。タウニィパスをお求めになった取扱店もしくは下記フリーダイヤルにお気軽にお問い合わせください。

お買い求めの取扱店

お問い合わせ先

ヤマハ発動機（株）　〒438-8501
磐田市新貝 2500

お客様専用フリーダイヤル

0120-808-208

保証制度

お買い上げいただきましたタウニィパスを構成する純正パーツに、材質または製造上による不都合が生じた場合は、消耗部品を除き保証書に示す条件に従い、その部品の交換または補修により無料で修理を行います。詳しくは保証書をご覧ください。

ヤマハ発動機株式会社
〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500

ワウニィパス 取扱説明書
2001年2月発行
不許複製
編集発行　ヤマハ発動機株式会社

再生紙を使用しています。

XA8-28199-00

200101-1.0×2 CR